

QuietPoint ATH-ANC3 (オーディオテクニカ)

予想実売価格1万2800円

単4乾電池1本で約50時間の使用が可能。カナル型のヘッドホンではあるが、耳への圧迫感はない。専用のキャリングケースが付属

MDR-NC22 (ソニー)

実勢価格7980円

発売から1年以上たっているが、今なお人気の機種。単4乾電池1本で50時間使える。バッテリーユニットがコンパクト。耳当たりは一番ソフトな印象だった

ノイズキャンセリングヘッドホン

種類が増えたインナーイヤタイプ音源によって各モデルの特徴が出た

耳障りな低い周波数の騒音を、逆位相の音を出して打ち消すのがノイズキャンセリングヘッドホン。本来の音から音質が変わると思われがちだが、どうなのか。キャンセリング効果については、耳にフィットするかどうかにも左右されるが、どのモデルもある程度は実感できた。

プロの耳で音質をチェックした

音質の評価を音響コンサルタントの森本浪花音響計画に依頼。音質は、iTunesからダウンロードした男性ボーカル、女性ボーカル、クラシック、ヒーリングミュージックなど、さまざまなジャンルの曲でチェック

電車内での試聴に加え、ボーイング747の騒音をスピーカーで流したなかでもテストした

HP-NLF11 (ラディウス)

実勢価格7980円

今回の5機種中で唯一の充電式モデル。パソコンにUSBで接続。約2時間の充電で最長33時間再生できる。耳との密着度が高く、遮音性は良いほう

RP-HC30 (松下電器産業)

実勢価格4980円

昨年の4月に発売された機種だが、今でも量販店などで売られている。約54時間、単4乾電池1本で稼働。リモコンで音量の調節ができる。着け心地は軽い

“全方位”で自然な音質のテクニカ

	音質
オーディオテクニカ	アップテンポの曲からクラシックまで、音源を問わず自然な音質。低音域も十分に感じられる
ソニー	ピアノの独奏のような静かな曲に向いている。曲によっては高音域が鋭く出ることもある
松下電器産業	ソニーの機種に似ている。高い音にハリがあるが、低音部がやや抑えられている印象
ラディウス	全体的に柔らかな音質。キャンセリング機能のONとOFFで音質がほとんど変わらない
日立マクセル	キャンセリングがよく効いている感覚がある。キャンセリングのONとOFFで音質が変わる

HP-NC18.CN (日立マクセル)

実勢価格7980円

単4乾電池1本で駆動。40時間程度再生できる。耳へのホールド感は良く、キャンセリング機能を感じやすい

Bluetoothを徹底活用

通勤時や外出時など、移動している場合には、手が離せない状況がよくある。そんなときには、Bluetoothを対応のグッズが役に立つ。Bluetoothヘッドセットを使えば、ケータイをカバンに入れたままハンズフリー通話が可能になる。以前は、ヘッドセットといえど1万円以上する高価なものが中心で、数千円の安価なものも、「声が聞こえづらい」「通話が途切れる」などの不満点が多かった。最近では1万円未満ながらも、使い勝手の良い機種が増加。比較的手ごろなものでも使える製品が出てきた。

今回1万円以下の最新モデル5機種を試したところ、音質の良しあしは多少あるものの、話をするにはすべて十分なレベル。ケータイと接続するペアリングのしやすさにも差がなく、簡単だった。

違いが出たのが装着感だ。クルマやオフィスで使うとなると、長時間の装着は避けられない。仕事で使うならずれにくい耳掛け式を選びたい。ブランドロニクスの「エクスプローラー220」は、耳掛けが自由に動き、取り外しが容易。目立たないものが欲しいなら、ブランドネックスコミュニケーションズなどの超小型モデルも候補になる。

Bluetoothを応用した面白いデジタルグッズもどんどん出てきている。IMJの「Blue Ring」は、iPodとケータイをBluetoothでワイヤレス接続するリモコン。ケータイをカバンに入れたまま、iPod側で



1万円未満でも通話音質は十分 使い勝手にメーカーに差がある

Bluetooth対応のケータイとヘッドセットがあれば、ハンズフリー環境を簡単に構築できる。ヘッドセットの低価格化が進み、1万円未満の機種でも通話には十分。Bluetoothにはバージョンがあり、1.2と2.0が混在。送れる通信量が多い2.0の機種を選んでおいたほうがいい。

音質と装着感をチェックした

ケータイとヘッドセットをリンクするペアリングの作業は、どの製品でも簡単だった。各機種をオフィスや外出先での使用を想定してチェック。音質や耳への装着のしやすさなどを見た

耳掛けのないモデルは小型で軽量だが、安定感ではやや不安が残った



Explorer220 (ブランドロニクス)

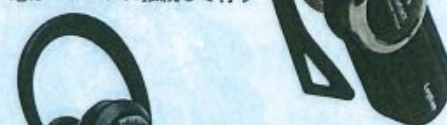
実勢価格6980円

音質は今回使ってみたほかの機種に比べてややクリアな印象。ボディの質感も良い。耳掛けが比較的自由に動かせるため、取り外しやすかった。あまり耳の奥まで押し込まなくていいので、長時間の使用に適している

LBT-HS110C2 (ロジテック)

実勢価格4980円

耳掛け式の3機種中、唯一ACアダプターが付属しない。充電はパソコンに接続して行う



Jabra BT3010 (GNジャパン)

実勢価格5980円

耳掛けの部分がやや硬かった。表面のパネルを取り外して、好みのパネルに交換できる

骨伝導ヘッドセット

●HG40SAN-TBT (テムコジャパン)

実勢価格1万3800円

頭が骨に伝わる振動を音声信号に変える骨伝導のヘッドセットであれば、耳の穴をふさがないため、外の音も同時に聞くことができる



PTM-UBTSET3S (プリンストンテクノロジー)

実勢価格6880円

親指の先くらいの超小型。マイクが口から離れているためか、やや声が遠い印象。通話だけであれば十分使える



BT-MiniHS (ブランドネックスコミュニケーションズ)

予想実売価格6000円前後

プリンストンテクノロジーの小型タイプと同じくらいのサイズ。耳に着けていてもほとんど重さを感じない



Bluetooth対応ヘッドセット

エンタメ、暇つぶし、情報収集 通勤を有意義に過ごすデジタル機器

移動時間が楽しくなる通勤グッズ

長時間電車に揺られて通勤・通学をしている人は多い。そんな人でも、デジタルグッズを使えば、通勤時間は有意義なものになる。

少し詰め状態の満員電車では「音楽が1服の清涼剤」という人も少なくないだろう。ただ、電車の中は雑音でいっぱい。そんなときには、ノイズキャンセリングヘッドホンが力を発揮する。ブランドの「クワイエットポイント」シリーズが有名だが、サイズが大きく通勤で使うには大きすぎる。そんなニーズを見越してか、最近増えてきたのがインナーイヤタイプだ。

一般的に、ノイズキャンセリングをかける音質が変わるといわれている。そこで音質の評価を、音響のプロである森本浪花音響計画に依頼。実際の使用シーンを想定し、実験室で騒音を発生させたなかで各機種を試した。

「どんな音楽でも自然な音質」と高評価だったのが、オーディオテクニカの「QuietPoint ATH-ANC3」と高評価だったのが、ロジテックの「LBT-HS110C2」だ。クラシックなどの静かな音楽からJ-POPまで、ノイズをキャンセルしながらも、音質の劣化が少なかった。ソニーの「MDR-NC22」は繊細な音質で、「ピアノの独奏などの静かな音楽を聴きたい人向き」(森本浪花音響計画)。